

年間第2 2 主日

すべてのいのちを守るための月間
被造物を大切にす世界祈願日

福音朗読 マルコ 7・1-8、14-15、21-23

2024.9.1 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日は子どもたちが奉仕してくださっているごミサで、そしてまたスカウトの人たちも来てくださっていますので、この辺（祭壇の前）でお話ししたいと思います。

今聖書を読みましたが、イエス様やイエス様の弟子たちは手を洗ってない。それに対して「なんで手を洗わないんですか」というふうに質問っていうか批判してきた人たちがいるっていうのが聖書のお話だったんですけど、今わたしたちにとっては、手を洗うっていうのは——手を洗ったほうがいいですね、コロナもそうだし、コロナになってからわたしも手をよく洗うようになったら、しょっちゅう風邪をひいてたんですけども風邪をあんまりひかなくなったので、やっぱり手を洗うって大事だなあって思います。でも、そういう衛生的な——衛生って分かる？ 元気に過ごすための、身体のためには手を洗ったほうがいいんです。

でも、イエス様の時代の「手を洗う」「手を洗わない」っていうのは、身体の健康のための話ではなくて、人間には神様に愛されている人と愛されていない人がいるっていう、その考え方からくる一つの宗教的な行事だったんです。つまり、自分たちは神様から愛されています。だけど外を歩けば神様から愛されていない人がいるし、その人たちにもしかしたら触ってるかもしれないし、その人たちが触ったものを触ってるかもしれない。そうしたら自分たちも神様から愛されないグループに入っちゃうので——昔のいじめで「何とか菌」とかいうのがあったでしょう。そういう感じ——だから、自分たちがそういう神様から見捨てられている人たちの仲間じゃないんですっていうことを表わすために、おうちに帰ってきたら儀式として手を洗ってたんです。だから、今のわたしたちがそういう、ばい菌が口に入らないように洗うっていうのと全然意味が違う。

だから、イエス様が言いたかったのは、「みんなが、すべての人が神様から大切にされている、愛されてるんですよ」っていうことなので、そういう人間を分けるような儀式はしないわけなんです。

わたしたちが日曜日ごとに集まっているこのごミサも、「神様はすべての人を愛してるんですよ」っていうことを思い出すために集まっています。だから、ほん

とだったらすべての人、いろんな種類の人が集まってこそミサで、完全にいろんな種類の人が集まる——そしたら全人類が集まらなきゃならないから無理なんだけど——でもいろんな人が集まることでよりミサの意味が出てきます。そういう意味では、今日スカウトの人が来てくれているのは——スカウトの人の多くはカトリックの洗礼は受けていない。だけど神様は洗礼を受けてる人を愛して、洗礼を受けてない人は愛しません、そういうことじゃないから、だからそういう洗礼を受けてない人の代表としてスカウトの人がみんな来てくれているということは、それだけ集まっている人の種類が増える——種類が増えるって変な言い方だけど——「すべての人」っていうことをより良く表すことができるので、本当にありがとうございます、っていうことになります。

でも、じゃあ皆さんこう思うかもしれません。「神様はすべての人を愛している。それは良く分かりました。神様、どうぞご自由に全ての人を愛してください。でも、わたしは嫌いな人がいますから、わたしはわたしが好きな人だけを愛します。この中に100人いたら、自分の気の合う人は10人です。その10人と仲良くします。神様はどうぞみんなを大切にしてください」って気持ちにはならないですかねえ？

でも、神様はほんとはご自分とおんなじようにみんなもお互い同士、人を大切にしてほしいなあっていうふうに呼び掛けているんです。

なんでかって言えば、わたしたちがほんとに好きな人、気が合う人だけを愛そうとすると、その数はどんどん減っていってしまうんです。たとえばここに150人いたとして、その中で自分が気が合うのは10人だ、と。10人の友だちといつも仲良くしてるって決めたとして、そうするとその10人の中で、今度は「あの子のああいうとこやだな」みたいな、今度は10人の中で気の合う人と合わない人と——自分の中で、ですけど——出て来る、そしてじゃあその10人が解散して5人、と。5人の中で気の合う3人、「あの2人はちょっといらないな」。そしてその3人の中で、、、そうなるとうちは自分一人だけになっちゃって、そして自分一人の中でも自分のこういう面は好きだけど、自分のこういう面は嫌いだって、どんどん分裂していく。だから、それは教会の言い方で言えば「悪魔のわざ業」なんだよね。人と人とがどんどんバラバラになっていって、そして自分の中でも自分も嫌いになっていくっていうね。

だから、わたしたちがすぐにすべての人と、みんなと仲良くできなくても、でも神様がみんなを大切にしてくれて、おんなじ心を神様がわたしたちにももって欲しいと思ってるし、そのためだったら助けてくれるんだっていうことをいつも自分に言い聞かせる。それがまたこのごミサの一つの目的でもあります。「神様がみんなを愛してるんだよ」っていうだけではなくて、そのおんなじ心でわたしたち自身も、お互い同士、そして自分自身を愛することができるように、神様

はそのためだったらいくらでも助けてくれるんだっていうことを思い出すわけです。

なので、今日、それぞれ子どもたちと、そしてスカウトの皆さんとか、いつも集まってるみんなと、ここでごミサをお捧げすることを通して、互いに、神様が大切にしているように——それは最終的な目標。すぐには出来なくても。いろんなこと、すぐには出来ないでしょう？ スカウトだって、すぐにたき火をおこせなかったけど、だんだん出来るようになった。すぐには出来ない。最初から上級者コースでもない。でもあきらめないで少しずつ少しずつ歩んで行くうちにだんだん出来るようになる、その希望を失うことなく歩んで行きたいですね。

そして、今日最初に言いました。今日は、「被造物を大切にする世界祈願日」です。被造物、難しい言葉です。被造物っていうのは——教会の中だけで出て来る言葉かもしれませんが——自然とか地球の環境とか動物とか、人間も入ってる、神様から造られたっていう意味では。でも人間だけじゃなくて、同じように、自然とか環境も神様が大切に愛していらっしゃる、そういうものとして大切にしていきましょう、そういうことを思い出す日でもあります。自然だけ大切にしたら人間はだめです、っていうんじゃないんですよ。人間を大切にする、そのおんなじ心で自然を大切にしていってということです。

わたしたちがそれぞれ、子どもなら子ども、大人なら大人、またそれぞれ——子どもと大人の二種類じゃなくて、みんな一人それぞれ違いますけども、それぞれの場で神様に助けていただきながら、他の人に対してそして自然のために何が出来るのかということに気付かせていただく、その恵みを願いながら、このごミサをお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>